

新型コロナ感染拡大の陰で...

新型コロナの流行が始まって1年、世界中で感染が拡大し、日本では政府が2回目の緊急事態宣言を全国各地に出す状況になってしまいました。東京をはじめ大都市圏では感染の疑いがあっても入院先がなく、PCR検査も受けられずに自宅で亡くなる人もいます。そんな中、政府は年明けの通常国会で入院やPCR検査、飲食店などの時短要請に応じない人への罰則（過料）を設けようとしています。命を守るための施策は遅々としているのに、「緊急事態」における罰則については早々と決められようとしています。

さらに不穏な動きもあります。昨年12月に行われた日本会議系の集会で、自民党の衛藤征士郎・党憲法改正推進本部長（衆議議員大分2区選出）が「たとえ一部に躊躇する政党があったとしても」改憲発議を強行するという趣旨の発言をしたそうです。衛藤氏の地元大分県玖珠町や九重町、由布市などにまたがる日出生台では毎年のように米海兵隊の実弾砲撃訓練が実施され（今年は新型コロナの影響が実施されず）、米軍は地元自治体との協定をないがしろにして夜間訓練の延長など協定違反を繰り返しています。米軍の所業に困っている地元有権者のことを大切に思うのなら、かつて防衛大臣でもあった衛藤氏が米軍にきちんと協定を守るよう抗議するくらいのことでもよいのではないのでしょうか。にもかかわらず、否それどころか憲法を変えて自衛隊を9条に明記することで、安保法制に基づく集団的自衛権によって、自衛隊員が米軍と共に（その指揮下で）世界のどこかで戦闘行為をせざるを得なくなる状況を率先して作り出そうとしています。9条改憲の動きはとまっています。

1月22日には核兵器禁止条約が発効されましたが、「核の平和利用」といわれる原発が「(稼働中に)CO₂を排出しない」として再稼働されつつあります。しかし原発は定期点検や起動時などには外部電力（火力発電）が必要で、

生み出す膨大な熱エネルギーの半分以上を海に放出しているのですから、海水温上昇や地球温暖化の要因です。そして何より核のゴミを増やし核兵器の製造につながります。絶対に認められません。

命を脅かす政治から、命を守る政治へ！

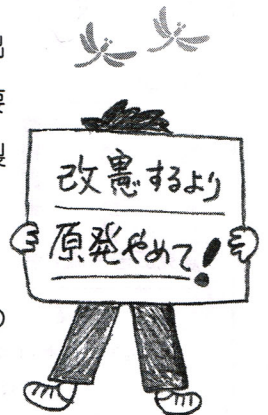
今年も孤立を恐れずに意思表示していきたいものです。
(日高礼子)



No. 224号
2021年2月5日
発行人 宮崎 優子
事務局 日高 礼子
☎090-1166-4218
FAX097-544-8892

赤とんぼの会
春の総会
3月27日(土)
13:00~
ライフパル
2F
今年の意見広告について
みなさんのご参加
お待ちしております!

**安保法制違憲訴訟
第14回期日**
2月18日(木)
11:00~
大分地裁にて
11:30から弁護士会館で
違憲訴訟の会・大分総会
裁判を傍聴しましょう!





「赤とんぼ」の会の主旨は憲法改正の反対運動であられると思います。

連合軍（米軍）の敗戦国となり数年間の植民地化の中で当時のマッカーサー率いるGHQから明治に施行された大日本帝国憲法の改憲を余儀なくされたもので、元をただせばフランクリン・ルーズベルトの日清日露戦争の勝利で強国となった日本押さえ込み政策であったと考えられています。二度と軍力で立ち上がれない憲法にしたかったわけです。然し朝鮮戦争の勃発により日本を前線基地とし、軍事力も持たせようとしたのが現在の自衛隊です。米国は世界の警察（表現が適切と思いませんが）として世界のあらゆる紛争に主導的参画、実際には自国の利権拡大が目的であったと思いますが、社会主義に対し自由と民主主義の波及に貢献しました。

残念ながら日本はポツダム宣言の無条件降伏を受け入れた国であります。当時のソ連と米国に分断されてもやむを得なかったであろうところ、米国の温情？もあって天皇制の維持また独立国となりましたが、常

に米国の意思と庇護（安全保障条約）があつての事でしょう。世界情勢は刻々と変わっており、決して米国の為だけの自衛隊ではありません、自国の防衛の為でもあり非常時の掩護隊でもあります。米国とは5対5であつて、あくまで今は米国と協力体制が必要なのです。

地球に人類が誕生して700万年、生存競争は永遠に続きます。5000年の歴史が語っています。紛争（戦争）なき世界は希望に過ぎません。今もこれだけの国々で紛争が起こっていますか。日本が紛争を起こさない、巻き込まれないよう国民一人一人が意識すべきでしょう。「赤とんぼ」会の崇高な活動には敬意を表しますが、理想論に過ぎないのではありませんか。

日本国憲法の全文を理解していませんが戦後76年を経て、改善すべき事項が多々あると思います。軍隊の表現を使わなくても自衛隊として明記すべきと考えます。ましてウイルス（病原菌）は今後も発生し続けましょう。その対策は世界基準の法制化を急がなければなりません。いずれにしても憲法改正は必要ではないでしょうか。

大分市 H・Yさん

報告

「改憲発議に反対する全国緊急署名」昨年暮に日田から10名分送っていただきました。ありがとうございます。

2020年 赤とんぼ会費 会計報告

2019.10/1~2020.9/30 (単位:円)

収入			
前年度繰越	346,628		
会費	165,500	120人	
2019年度意見広告より	3,197		
預金利息	2		
合計	515,327		
支出			
印刷費	86,130	会報221号~223号	
通信費	82,880	会報送料	
家事業務費	24,000	2019年10月~2020年5月	
会議費	10,489	封筒・インクなど	
意見広告・協力金	3,310	総会会場費など	
	20,000	*	
合計	226,809		

*市民意見広告運動・9条の会ヒロシマ・日出生台・オール大分

会費 残金 **288,518 円**

2020年 38回意見広告 会計報告

9月末まで (単位:円)

収入			
意見広告賛同金	2,956,663	2,663人 (内匿名390人)	
受取利息	2		
合計	2,956,665		
支出			
印刷費	2,729,000	合同・朝日・毎日・西日本	
会費	64,790	チラシ・封筒など	
家賃	300	交通費など	
	12,000	みんなの家 6月~9月	
合計	2,806,090		

意見広告 残金 **150,575 円**

*例年どおり残金は次年度会費会計に繰入れます。

会費 残金 **288,518 円** + 意見広告残金 **150,575 円**

= 次年度繰越 **439,093 円**

記憶に刻まれた一冊の本

●『夏の雲は忘れないヒロシマ・ナガサキ1945年』

夏の会編

発行・大月書店 定価・1500円＋税

あさだった

ばくだんがおち

みんなたすけてー

といっている

いぬもしんでいた

いきているいぬは

みんなほえている

まつの木の下には

となりのおじさんが

しんでいた

小学4年 松島愛子

この詩は、『夏の雲は忘れないヒロシマ・ナガサキ1945年』で紹介されています。この本について、演出家の城田美樹さんは次のように記しています。

「『夏の雲は忘れない』。この作品は1945年8月6日と9日、広島と長崎に投下された原子爆弾により家族を失った子どもやお母さんの手記、亡くなった子どもた

ちの最後の言葉などを、朗読のための台本としてまとめたものです。2008年の初演から2019年、この台本を編集した女優たちのカンパニーである「夏の会」が解散するまで、この作品はいく度か改訂を重ねながら、全国各地で読み継がれてきました。」

舞台では、「夏の会」の18人の女優とともに、上演先の地域の子どもたちが一緒になって朗読したそうです。

夜はとっても寒かった、川の水はおいしいね

お父さん、すみません。お母さん、すみません。みんな死にました

泣かんでもよかとよ。母さん、きょうはゆっくり休まんね

75年前の子どもたちの、これらの最後の言葉は、現代の子どもたちの身の内にどのような形で沈み込んでいったのでしょうか。

私自身、子どもの頃から原爆については、物語や小説の中で読むことができました。ドラマも見ましたし、映画も見ました。けれどもこの本を読んで、繰り返し繰り返し、反芻してその恐ろしさを想像しなればいけないのだと気がつかれました。

尚、手記のほかに絵や写真も掲載されています。写真の中の子どもたちの瞳や笑顔は屈託なく明るく、時にはにかみながら無限に輝き、そしてその輝きは確かにあったのです。

最後に、広島一中の藤野博久さんの言葉を紹介します。

藤野さんは8月6日の朝、広島

の原爆で亡くなりました。

その前の晩、お母さんのと見えさんと二人で屋根の上から星空を見上げ、尽きない話をしたそうです。そして、星の話をしながらこんな言葉を残しました。

「ねえお母さん、どうして戦争なんか起きるのでしょうか、やめてほしいなあ、日本にない物はアメリカから送って貰い、フィリピンにない物は日本から送ってやり、世界が仲よくいかなものかしら。そしたら世界が一つの国家になって、世界国亜細亞洲日本町広島村になるね」

(河上しげみ)

お知らせ

今年1月22日に発効された「核兵器禁止条約」。赤とんぼの会員でもある大分の被団協の方から『日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名』への協力を依頼されました。事務局で検討し、会報に同封することになりました。署名は直接「被団協」宛に送って頂いたらよいです。期限は設けていないそうです。

〈連絡先〉

日本原水爆被害者団体協議会
〒105-0012

東京都港区芝大門1-3-5

ゲイブルビル902

☎03-3438-11897

婚外子差別にNo! 電話相談 2021

☎042-527-7870

1月7日・2月4日・3月4日

4月1日・5月6日・6月3日

7月1日・8月5日・9月2日

10月7日・11月4日・12月2日

(毎月第1木曜日 午後2時〜8時)

〈主催〉なくそう会

〈主権〉なくそう会

婚外子差別・交流会

旅立った仲間を憶う

私事ですが、昨年はこれまでになく多くの友人や仲間をおくりました。その中でも「赤とんぼの会」の活動を長年共にしてきた方が二人も逝ってしまい、淋しさもひとしおです。十一月八日に亡くなられた武内さんは、二十年近くも会計を担当していたとき、一時期は病苦をおして頑張ってくださった方です。目立つことを避けるようにいつも隅の方に居て、そして確実な仕事ぶりでした。

三千人余りからランダムに集まってくる広告料を正確に処理してゆく仕事はナカナカ根気が必要で、本当に武内さんならでした。

十二月十八日には田中三和さん。多くの方が知っているように、「赤とんぼの会」のシンボルの中心（代表ではなく）に居てくださった方で、物事にとらわれることの少ない、独特の個性の持ち主でした。どちらかというと、最悪の事態を想定しながら計画を立てようとしていたり、とかく暗くなりがちな私を「深刻劇」と笑い飛ばしながら進んでゆく人。何よりも自由を愛し縛られることを嫌った。太っぴらに口にされる事はなかったけれど子ども時代を過ごされた植民地時代の朝鮮の事や沖縄についても深く考えておられました。

私との出会いは毎月主催されていた小さな学習会「木ノ会」でした。世の中で一番弱い立場に置かれている人たちの目線で物事をとらえ、不都合があれば一緒に改善に取り組んでゆこう、そこに居る人たちの位置から見れば、いろいろな事が見えてくる。そこに居る人たちが安心して生きられる世の中なら、私も安心して生きることができると考え、障害のある人たちとの活動を始めていた

私に友人を介して声がかかったのです。田中さんはすぐに仲間に加わって下さり、キャンプに参加したり、その類まれな感性で、文章を綴る青年の日記の出版を手がけたりして、仲間たちから「田中のオバちゃん」とよばれていました。晩年はご自身も両眼を失明され不自由な闘病生活になられました。それでも気になるあの人やこの人に声をかけながらの在宅生活でした。私にとっては、活動を始めて二年ほど経った頃、心身ともに疲れ切って動けなくなりそうな姿を、ちょうど学習会の人たちと見学に来られた田中さんが目にされ、まるで保護するように御自宅での静養を勧められ、一月ほどの滞在で回復させていただいて以来、足を向けて寝られない存在となりました。とは言え、お互いの主張が食い違ふ時には、端の者が心配するほど激論を交し合うつき合いは最後まで続きました。病を得て退かれてからはお会いすることもまれになり、時折電話での声をお聞きする程度でした。友人の誘いで二人で沖縄を訪れ、竹の杖とおにぎり弁当を持たされて、バスで戦跡をたどった旅を思い出します。あの時は息を切らせて後を歩くのが私、声をかけながら先を行くのが田中さんでした。

先に行かれたお二人、そのうち行きますから待っていて下さい。

(寄村 仁子)



田中さん、武内さん、
寄村さんがそちらへ
行きそつになつたら
「まだ早いよー」と
追い返して下さいね。

(れ)

声に出して読んでみましょう憲法九条

「戦争の放棄、戦力の不保持、交戦権否認」
①日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

赤とんぼの会事務局 〒187-0085 大分市豊鶴2丁目5番53号
TEL:090(1166)4218 FAX:097(544)8892
ホームページ: <http://akatombo.com/> (郵便振込)015401012160

市民連絡会おおいた 2021スタート記念講演

「知って、何をするか。」

～これまで、そして、これから～

講師> 徳田 靖之さん (弁護士)

とき> 3月13日(土) 13:30～

ところ> コンパル400号室

参加費> 500円(学生無料)

主催> 市民連絡会おおいた

連絡先> 090-4583-8797 (池田)

音楽と講演

「平和憲法から現代を問う」

—軍事研究の現状—

講師> 芦名 定道さん (京都大学文学研究科教授)

とき> 3月7日(日) 14:00～

ところ> ホルトホール大分 大ホール

入場料> 一般1,000円 (学生無料)

主催> 宗教者9条の会・大分

連絡先> 097-558-7861 (佐々木)

「建国記念の日」に抗議する市民集会

「在日 韓国人から見た日本」

講師> 崔 善愛さん (チエ ソンエ)

とき> 2月11日(木) 13:30～16:30

ところ> コンパル視聴覚室

入場カンパ> 1,000円

連絡先> 090-4350-3252 (島田)

参加希望の方は事前にご連絡を。